

こたえ ごみのゆくえ

はってん
発展 ③

ごみのゆくえ

家から出されたもやすごみは、ごみ収集車^{しゅうしゅうしゃ}で、清掃工場^{せいそう}へ運ばれます。ごみ収集車^{しゅうしゅうしゃ}は、決められた曜^{ちいき}日に地域の集積所^{しゅうしゅうしよ}を回^{まわ}って、ごみを集めます。

清掃工場^{せいそう}では、ごみを、八百度以上の高い温度でもやします。もやすと、ごみのかさは、およそ二十分の一になります。もやした後に残^{のこ}った灰^{はい}は、うめ立て地に運ばれたり、セメントなどの材料に作りかえられたりします。

また、ごみをもやすときに出る熱も、むだにはしていません。その熱を使って電気を作り、工場の中で使^{つか}ったり、電力会社^{でんりくかいしゃ}に売^うったりしています。近くのプールに、温^ぬかいお湯を送^{おく}っている工場もあります。

けれども、うめ立て地の広さには、かぎりがあります。ごみそのものをへらしていくことが、これからますます大切^{たいせつ}になっています。ごみを分けて出し、使えるものはリサイクルすることも、ごみをへらすことにつながります。

1 もやすごみは、どこへ運ばれますか。

せいそうこうじょう

2 ごみをもやすと、かさはおよそどのくらいになりますか。

ア 半分

イ 十分の一

ウ 二十分の一

3 ごみをもやすときに出る熱は、どのように使われていますか。

電気を作ったり、近くのプールに温かいお湯を送ったりしている。

4 ごみそのものをへらすことが大切なのは、どうしてですか。

うめ立て地の広さには、かぎりがあるから。

おうちの方へ

- 家でできる「ごみをへらすくふう」を、いっしょに考えてみましょう。